

## 教育と人間に関する一考察

### 1. 教育を考える一言

「将来のことを考えていると憂鬱になったので、そんなことはやめてマーマレードを作ることにした。オレンジを刻んだり、床を磨いたりするうちに、気分が明るくなっていくのには全くびっくりする。」（D.H.ロレンス）

### 2. 背景

人はだれでも憂鬱な気分になることがあります。同じ環境の中でいくらもがいていても、改善の兆しはいつか見えてきません。改善の見えない環境なら、それを変化させていくことは至極当然のことでしょう。

時には、体を動かし、リフレッシュしながら他のことに熱中することも必要でしょう。筆者は、息が詰まったらいつも環境を変え、リフレッシュしています。人にとって精神衛生上、とても大切なことです。モチベーションもぐっと高まります。筆者は、そんなロレンスのこの言葉が、とても気に入っています。

### 3. 考察

筆者が、教員を志願した理由・動機は色々ありますが、まずは子どもが無条件に好きなことが一番の理由です。子どもの生き生きとした姿を見ているだけで元気百倍になれるところも教師の大きな魅力かもしれません。とりわけ、子どもが「やったー！できた！」と達成感・成就感を味わった瞬間の満面の笑みやきらきらと光輝いたまなざしは、同時に「教師をやっていてよかった！」と思える瞬間でもあります。子どもと時を忘れ、すべてを一体にし、全力で戯れている、そんな一瞬一瞬が最高の幸せであり、心の大きな礎にもなっています。大人のまなざしは嘘をつくことがあっても、子どものまなざしは決して嘘をつくことはありません。どんな子どもでも、みんな多かれ少なかれ真っ白な気持ちをもっています。

教育の場は無限に広がっています。子どもの可能性も限界などありません。そうした中で教師は、子どもが安心して学習できる場を常に追い求めていく姿勢が大切なのです。

#### 文献情報

阿部知二「ロレンスの人間主義」阿部知二 編『ロレンス研究』英宝社、1979年

佐々木学『D.H.ロレンスの文学と思想』松柏社、1976年

ジョン・ワーゼン 木村公一・島村豊博・大八木敦彦訳『若き日のD.H.ロレンス—ケンブリッジ版評伝』彩流社、1997年